

●行事予定

2023年3月5日(日)「シュタムティッシュ」

ドイツボードゲームを開催予定(詳細追ってご連絡します)。

●行事報告

1. 国際縁日

11月3日大安寺にて開催され、当会の若手の会2名によりドイツのボードゲームのうち4種類のカードゲームの展示と体験会を行った。高校生など若い世代や親子づれなど広い層の方々にドイツの文化と奈良日独協会の紹介する良い機会となった。



2. トラウツ先生没後70年記念法要と高野山根本大塔拝観バスツアー

11月20日、故F. M. トラウツ先生没後70周年記念法要のための高野山バス旅行は、30名が参加、天気にも恵まれ当協会の貴重な1ページを画する記念行事となった。

3. クリスマス会

平成元年以来3年ぶりとなった恒例のクリスマス会は、12月4日17時より「北京料理 奈良百楽」で開催された。会は飛び入り続出で賑わい、コロナの閉塞感を吹き飛ばす熱気に包まれ久しぶりに交流の場を広げることが出来た。フィナーレは水野さんと Gisela 先生のリードにより全員で”Stille Nacht”を合唱して幕を閉じた。

(前ページ左上写真参照)

4. ドイツ料理教室

12月11日奈良市生涯学習センターで、講師の土井ギーゼラ先生ご指導のもと、スイスの郷土料理「チューリッヒャー・ゲシュネッツェルテス」をメインの季節と風土色豊かな料理が出来ました。

5. ドイツ映画鑑賞会・第27回シュタムティッシュ：7月8日。映画会は「帰ってきたヒトラー」を鑑賞し、引き続きシュタムティッシュを行った。現代によみがえったヒトラーが物まね芸人と誤解され、ゾッとするような“コメディ”で、「まさに今の世の中に警告を発しているようでした。そして後のシュタムティッシュでは、どの国も第二次世界大戦前に似た状況がみられる、と映画についての話で盛り上がりました」とのコメントを水野理事から頂きました。参加者8名でした。

●会員便り

中西ひとみさんから

Der Albertplatz in Dresden

ザクセン州の州都ドレーズデンの中央部は、蛇行するエルベ川の南側に位置する旧市街と北側に位置する新市街が、4つの橋で繋がれている。十八世紀初頭にアウグストゥス強王によって建造されたバロック様式の橋を、歴史的建造物が立ち並ぶ旧市街から渡ると、長さが約540m、幅が約50mもある中央大通りが Albertplatz (アルベルト広場) まで貫かれている。この辺りには、レースや帽子といった上質の手作り品を扱う専門店や、こだわりの強い音楽ショップ、お洒落で美味しいレストランなどもある。またアルベルト広場には、E.ケストナーミュージアムが隣接している。ここでは文化的なテーマの講演会が常に開催されており、ケストナー作品に触れながら、素敵なカフェで落ち着いた時間を過ごすこともできる。

大通りのほぼ中央に、Kügelgenhaus (キューゲルゲンハウス) という、小さなミュージアムがある。このちょっとユーモラスで、球体(Kugel:クゲル)を思わせるような名前のミュージアムは、C.D.フリードリヒの師であり友人でもあった肖像画家 Gerhard von Kügelgen(1772-1820)が、1808年から1820年まで住んでいたことに由来する。"Gottesseggen" (神の恵み) という別名を持つこの小ミュージアムには、沢山の画家の他、ヴェーバー、シューマン、ワーグナーといった音楽家の作品や、ノヴァーリス、ティーク、クライスト、E.T.A.ホフマンに関する展示もある。うっかりすると通り過ぎてしまいそうだが、ドレーズデンにおけるロマン主義が生み出した果実が溢れ出す空間である。



ベルリンにて



ケストナーミュージアム



キューゲルゲンハウス

